

カトリック六甲教会 教会報

2008

12

No.444

子どものように待つ

コリンズ神父

今年も待降節を迎えました。

待降節の過ごし方は、四旬節とはおのずと違います。四旬節は、私たちの希望である、キリストの復活に預かるために、前向きに過ごす6週間の心の準備期間です。

しかし、待降節は過去の事実に基づいているイエスの誕生日を思い出しながら、復活のキリストの来臨を待つ時期です。多くの犠牲を払うものではありませんが、歴史的な出来事（イエスのお生まれになったこと）を乗り越えて、歴史の目的（復活のキリストの現れ）を待ち望んでいるキリスト教の信者は、この緊張した状態に置かれています。

2000年前の出来事であるイエスの誕生は、私たちの大切な、ひとりの子どもの誕生というだけではなく、私たちのために人間として救い主キリストがお生まれになったのです。そしてそのキリストと出会うのが、クリスマスです。復活のキリストは現在のものです。今もなお生きて、日々私たちに働きかけて下さっています。復活のキリストは必ずいらっしゃるという確信を持って、喜んでその確実の来臨を期待しています。毎日繰り返されるキリストとの出会いを意識し、喜びましょう。

待降節は、単なる過去の出来事を思い出す時期ではなく、むしろ現在の私たち一人ひとりの信仰を生かす時期ではないでしょうか。

今年のクリスマス、あなたは、今年のクリスマスに生まれ出ずる、今日を生きているキリストと出会うでしょう。そう期待する気持ちを持って下さい。受け身で待ち続けるのではなく、希望を持ってクリスマスまで過ごしましょう。子どものように待ちましょう。クリスマスにキリストに出会う喜びに期待して……。



信徒の教会づくり

私たちの「信徒の教会づくり」を考えていくために、いろいろな方に様々な考えを述べて頂くコーナーです。ご自分の思うところを投稿頂き、みなさまの意見の交換の場になれば、と願っています。

世代・年齢を越え、声をかけ合い

井川（壮年会副会長）

「信徒の教会づくり」について、これまでの経験から思うことを書くようにとのことでしたのでこれまでの教会との関わりを書いてみたいと思います。

私は、教会活動に積極的に参加していた時期は、3期あると思います。

1期は、1990年～1993年(荻窪教会時代)、2期は1996年～1998年(六甲教会壮年会副会長時代)、3期2007年～現在(六甲教会壮年会副会長2回目)です。

<1期目>

私達家族は、約20年前、東京の荻窪教会に通っていました。当時は、長男が幼稚園、次男は2歳頃、末っ子の長女はまだ生まれていませんでした。

信徒数350名弱の小さな教会で、私たち家族は自転車か徒歩でミサに授かっていました。青年会は有名無実、壮年会は50代、60代を中心として10名程で月1回開催されていました。30代の父親5～6名がバルトロメオ会（教会の守護神バルトロメオにちなんだもの）と称して教会で月1回土曜日の夜、神父さんを囲んで飲み会を開催しておりました。私は、バルトロメオ会の常連でしたが、壮年会はほとんど参加していませんでした。

教会学校は、日曜日のミサの後、大学生が1人担当、子供達は、ミサ後教会学校に出席し、教会学校が終了しても、1日中教会で遊んでいました。

そんな中で、バルトロメオ会のメンバーの子供達が通っている教会学校のバックアップからスタートし、教会でのお泊り会、カレーパーティ、そうめん流し、復活祭の料理作り（男の料理教室の元祖）など次第に教会行事にも積極的に関わっていったのを覚えています。当時のメンバーとは再会すると時間を越えて30代に戻ったような気分になります。

少人数の教会のため、教会運営が少数の信者に負担がかかっている状況を打破するため、神父さんは、どんな役でもいいから、「1人1役」を呼びかけていました。

<2期目>

大阪に転勤し六甲教会のメンバーになって3年目‘96年‘97年の壮年副会長を依頼されたのが、2期目の始まりでした。前年の‘95神戸地区信徒大会は「わたしたちの教会‘新生’」でした。教会行事としては‘96年4月教会献堂式、秋の教会遠足（宮津教会）、‘98年相生教会訪問等があったのを覚えています。壮年会例会の参加者は、25～26名前後でした。

副会長の任期が終了し、六甲教会が自分の所属教会と思えるようになった矢先、今度は、東京転勤（単身赴任）になり、帰宅時に月1～2回ミサに授かる程度になりました。

< 3期目 >

単身赴任が終了した翌年、再び、壮年会の役員をすることになりました。前回の副会長から約 10 年目になります。例会参加者は 25～26 名と、10 年前とそれ程変化はありません。しかし、青年会が「バザー」や「納涼の夕べ」などでの力仕事を壮年会と協力し合ったり、壮年会や婦人会が子供ウオーラリーや教会学校のキャンプに参加するなど、壮年会、婦人会、青年会、教会学校などの各会の枠を超えた交流が拡がり始めました。

「信徒の教会づくり」には、拡がり始めた交流の輪を大きくし、いつも親しい同士だけで交わるのではなく、世代、年齢を超えてお互いに声を掛け合い、一人一人が少しでも教会の役割を担うことから始める必要があると感じています。

「自分の兄弟にだけ挨拶したところで、どんな優れたことをしたことになるのか。異邦人さえ、同じことをしているではないか。(マタイ 5-47)」



主任司祭の地平線

当教会は、この12月8日(月)無原罪の聖マリアの祭日に**創立60周年**を迎えます。皆様と喜びを共にし、心からお祝い申し上げます。当地でのイエズス会の宣教司牧活動は、昭和14年(1939年)福島氏宅で始まり、岡山氏宅を経て、**昭和23年(1948年)**現在の赤松町に移り、まず司祭館(修道院)付きの聖堂が建設されました。その教会は住吉教会の子供として誕生し、大阪大司教区の一小教区として認可され歩み始めたのです。その後、司祭館から独立した木造の大聖堂が現在の駐車場の土地に建てられ、昭和28年(1953年)5月に完成しました。教会の敷地が2メートル程の段差のある二つの土地に分かれていた時代です。

世の荒波と風雪に耐えながら成長を続けてきた教会共同体の60年を振り返るに当たって、初代の主任司祭・ブラウン神父と初期のイエズス会宣教師たちに心からの感謝を捧げたいと思います。ブラウン神父は故国の信徒からの寄付を携え、終戦直後に神戸の地を訪れ、主キリストによる救いが拡がり成就するようとの祈りを込めて、この地を選び、宣教拠点として教会を建てて下さったのです。

私たちは宣教師たちが建てた教会のお客さんではなく、今や信徒の時代として、信徒が中心になって、この宣教拠点である六甲教会から「救いの福音」をこの地の多くの人々に宣べ伝えて行く使命を持っていると思います。

現在の鐘楼と鐘はその数年後に完成祝別されましたが、今も昼12時と夕方6時にはアンジェルス(天使)の鐘が鳴っています。私は時折、元気の良い鐘の音を聞いていると、この地に「主の教会」があつて本当に良かった!と宣教師たちの魂—その愛と熱意に感謝の念を覚えずにはおれません。これからも神の愛と人間の救いを告げるアンジェルス(天使)の鐘が、大きく鳴り響いてゆきますように・・・。



みんなの広場

待降節によせて - キリスト誕生とマジック

少し前まで大ブームであったマジックを、先日久しぶりにテレビで見せてもらった。マジックには、「ウッソー」と思いつつ、また見たくなる不思議な面白さがある。耳が「大きくなった」とマギー審司がビックリとユーモアで笑わせてくれた。また、ナポレオンズには「何で」という人間の探求心がすぐられる。笑っているうちに思わぬことを発見した。なんと magic の語源はキリスト誕生と関係があるというのだ。聖書（マタイ 2・1 - 13）にあるようにキリスト誕生時、大きな星の光に導かれてベツレヘムに案内され、馬小屋で生れたイエスを見舞った東方の3博士こそその関係者であり、「マジ族」と呼ばれていた。調べてみると、彼らは高い教養と天文知識を有し、キリスト誕生を予言し、星座を読み取り、生命の循環を悟り、光の力、波動の力、言葉の力を知っていたという。ペルシャの魔法をも心得た階級であり、そこにゾロアスター教というのがあり、キリスト教とも友好関係にあったようである。これら深い意味を持ったマジは、長い歴史の中で magi から magic へと変化した、という。

マジックはトリックを使う。「トリック」といえば、次のような話を紹介させて頂きたい。安岡章太郎と三浦朱門の対談集であったと思うが、弧里庵先生こと遠藤周作は、「あなたはカトリックですか」と聞かれたら、冗談めかしてよく「トリックか」と答えていたという。江藤淳は遠藤周作について、「慶応に入学するまでに9つの学校を受けて落ち、3年間浪人し、あげくに医学部に入ったと称して文学部予科に入ったことが父親にバレて勘当されたという男、あんないい加減な男、あの馬鹿げた男。『敬虔なキリスト教徒』の皆さんから眉をしかめられていて、なおかつイエス・キリストへの信仰心は敬虔な人以上に大変あつい『不良信徒』。しかし本当の彼は猛烈な勉強家、劣等生と思っていたらとんでもない優等生の一面を示した。そういう彼の二面性はキリスト教徒としても、文学者としても、彼の人生全般においても言えると思う。一般的にカトリック（キリスト教徒）というと、頭に『敬虔』という冠がついて、とにかく生真面目の謹厳実直、意志が強く、品行方正な立派な人でないとなれないという印象を与えているようで、遠藤さんはそうした固定観念を壊したがっていて、それを巧みに実践していたのではないのでしょうか。」と書いている。文芸評論家江藤淳の目には遠藤の言動はトリックに見えたのだろう。そういうことに遠藤周作は、「それはなあ、日本でクリスチャンたろうとすれば、二重人格は避けられないね」と言っていたという。また、ネラン神父は遠藤周作について、「キリストを信じ、自分の立場で、自分の言葉で、多くの人にキリストを伝えました。20世紀後半の日本における第一の宣教者と評価し尊敬している。」と言っている。

神様の子が、わざわざ馬小屋の中で生まれてこの世に来られた。その意味は、清貧、謙遜、忍耐の三つの徳を人類に教えるためである、と今井美沙子さんが「ともしび」に書いておられた。神のトリックのなせる業、宗教的には人智を越えた神の働きというのであろうか。神との出会い、人との出会いもそういうものの様な気がする。しかし、昨今ではキリスト誕生の意味と正反対なことを目の当たりにすることが、何と多いことだろうか。清貧でなく、外見を飾り、所かまわず携帯電話や化粧をする。謙遜でなく、他人を見下し、人を騙し、お金儲けに熱心で、自分たちだけよかったらいいという人間。忍耐でなく、自己を律すること少なく権利主張は強く、他人を攻めることばかり。そしてクリスマスは、今や日本では、商業主義に利用され、ケーキを食べられたり、プレゼントをもらえたりとサンタクロースの日になってしまっている。こういう混迷の時代こそ、目に見えないが、神のマジックかトリックかの御手が広げられていることに、もっと多くの人が気付いて当然と思うのであるが、現実には、「無神論者です」という人が殆んどである。キリストの訪れが恵みであり、希望であることを、また、「あなたがたは地の塩である。…世の光である。…」(マタイ 2・1 - 13) と我々に言われていることを、待降節を通して考

えてみたい。

(宮根)

マリア・マグダレナ・ソフィア 三恵子さんと共に捧げるミサ

カトリック五井教会 久本

2008年10月12日(日)午後1時30分より六甲教会の大聖堂で、三恵子さんご家族、高校の同期生、友人、知人41名が集り、ミサに与りました。

三恵子さんは、1999年にALS(筋萎縮性側索硬化症)という難病にかかり、それ以来、想像を絶する苦しい闘病生活を送って来られましたが、そんな闘病生活の中、2003年5月17日、自宅で洗礼を受けられました。

今日のミサは、「自分が所属する六甲教会でミサに与りたい」と言う三恵子さんの強い願い、そして桜井神父様、長崎のディアス神父様など各地の神父様、シスター、たくさんの友人、知人たちの祈りに支えられ、実現しました。昨年亡くなった親友のマグダレナ・ソフィア板倉 真美子さんの天国からの励ましもあったことと思います。

呼吸器を付け、ずっと寝たきりであった状態から4年ぶりに車椅子に乗り、6年ぶりに外出するのは、大きな困難を伴う挑戦でしたが、ご家族の理解、ベテランのヘルパー米谷さんの献身的な介助、多くの友人や六甲教会信徒の皆様の協力で支えられ、実現しました。

三恵子さんのこの出来事を通して、多くの人達が力づけられ、その影響は彼女を知らない人達にまで及んでいます。人の想いを遥かに越えた“神様の深い愛”を感じながらミサに与りました。

★★★ (当日のミサに参加された皆様への)「三恵子さんの挨拶」★★★

今日はたくさんのお友達に来ていただいてありがとうございます！

今年になって、昨年亡くなったワカちゃんの『ヘヴンリー ブルー』(闘病日記と友人との書簡)の本を読んで、彼女に会って話しができなかったことが、残念でなりません。そのことを黒田さんに話したら、「主人が付いてあげるから外出しよう！」と夢のような、考えてもいなかったお話を持ってきてくれました。主治医も「気候の良い時期なら構わないよ」と言ってくださり、それからプロジェクトが開始されました。「遠くはダメ」と言われましたが、どうしても六甲教会と自宅に帰りたかったのです。それでも欲張ってはいけなかったので、多くの人に会える教会に決めました。

信者として一度も行ったことのない教会だから、どうしても一度来てみたかったのが、今日実現したのです。ここまでたどり着くのに、何度も病院と衝突したり、諦めた方がいいのではないかとすることもありました。でも、たくさんの友達が助けに来てくれて、勇気付けてくれました。彼女らは私が車椅子に乗る時など、看護師さんよりすばやく、簡単に持ち上げてくれました。

その時、私は40年前の「体育祭」を思い出しました。他の学年に恐れられた【赤ハチマキ】！一致団結の強さで私を椅子に運んでくれたみんなは、まさに【赤ハチマキ】をしているように見えました。

意地悪で、わがままで、身勝手な私のために、そこまでしてくれるたくさんの友達。あんなに嫌いな学校だったのに、こんなに素晴らしい友達と出会い、感謝しています。

そして、今日のこの日を計画して下さった、黒田先生、桜井神父様、六甲教会の方々、ヘルパーの米谷さん、また私のためにお集まりくださった皆さん、お家で私のことを思ってくれている人達に心より感謝致します。本当にありがとうございました！！

(紙面の都合により、頂戴した原稿を広報部で編集させていただきました。)

行事報告

シルバー大会

10月25日、聖トマス大学で行われた「第5回シルバー大会」で歌う機会をいただき行ってきました。シルバー大会という、いかにも参加をためらう名称の会ですが、浚刺とした方たちが200名ほど参加されていました。大阪教区の各小教区で、きっと中心的なご活躍をされている年代の方々と思われます。他にも、求道者の方、プロテスタントの方などもいらっしゃいました。

森一弘司教様の講演で「希望としてのキリストのメッセージ」のお話がありました。山上の説教の部分をキリストの人類に対する所信演説と読み取り、現代へのメッセージをお話してくださいました。①人間の尊さ②人間への温かいまなざし③仕えるために④力・権力をもってではなく…などのポイントがありました。遅刻したためきちんと聞いていません。

その後、ミサが行われました。福音は、マタイ 22:34~40 が読まれました。律法学者がイエスを試そうとして「先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか」と尋ねるところです。イエスの答えは、「愛すること」です。

森司教様は、「掟というのは決まりやルールのことですね。私たちは、決められているから愛さなければならないのでしょうか。」と問われました。「(略) 皆さんは、お孫さんのことを、とても愛しておられると思います。お孫さんに、私のこと愛してる？と聞かれたら、愛しているよ。大好きだよ。と答えるに違いありません。それは決まりだから愛しているわけではないでしょう。神様も、私たちを、決まっているからではなく無条件に愛してくださっています。愛は、ルールというまでもなく当然のことです。人として生まれたなら、愛されて当たり前なのです。でも、私たち人間は、どんな人でも無条件に愛することができるのでしょうか。ときどき難しいこともあるでしょう。(略) 私たちは、いずれ天に召されますね。その時、神様が、天国と地獄の分かれ道にいらっしゃるとします。私たちは、自分がルールを守れなかったことを自覚していますから、地獄を覚悟する人もいれば、許しをこう人もいるでしょう。さて神様は、ルールが守れなかった人を地獄へと道案内するのでしょうか。では、想像してみてください。あなたのお子さんがご結婚されたとき、結婚式の喜びのときに、おまえには、自動車事故のとき、お金を肩代わりしたあの、代わりにあやまってやっただのということは言うのでしょうか。否。神様も、人生の長い道を終えて自分の元に帰ってきた喜びのときに、以前の事を掘り起こしてとやかく言ったりはしないはず。きっと私たちを天国に迎え入れてくださることでしょう。神様の愛は、赦しです。」というようにお話だったと思います。

司教様の温かいお人柄の中にも、神様が愛であるというメッセージを感じました。懇親会で、偶然司教様のお隣の席になったので、殉教から何を学ぶべきかと聞いてみました(列福が近いので、この話題になりました)。「神様は愛深い方だということを確認をもって伝えるためには、神様との深い交わり、お付き合いが前提になります。自分にわからないことを話すことはできないからです。現代の私たちが、『愛である神様』という確信を持つためには、祈りに行ったり、黙想会に参加したり、ミサにあずかるなどの積み重ねが必要です。」とのこと。

心全体で神様の愛を感じ、確信を深めていくことができますように。

(中村)

六甲アイランド地区会報告

去る11月1日(土)14:00~15:00、いつものように高山様宅で地区会を開催。山田様には幹事として連絡や参加者のとりまとめ、そして準備などで大変お世話になった。12名(うち子供1名)が出席。今回は安芸神父様にお越しいただきミサをお願いした。ミサの後、歓談のひと時を分かち合った。次回は3~4月ごろに開催の予定。

(柁木)

行事報告

青年会 練成会

11月8日、9日の2日間、六甲山YMCAで青年会練成会を行いました。

あいにくの雨模様であったが、12名のメンバーが参加し、ロザリオの祈り、黙想、勉強会（ペトロ岐部と187殉教者について）を行い、非常に充実した2日間を過ごしました。

<感想文>

今秋の青年会練成会では、担当者の一人として勉強会の準備をさせて頂いたことに心から感謝しています。過程にはしんどいこともありましたが、それ以上に皆さんのやさしさに触れ、支えられたと思います。そのことが本当に嬉しく感謝しています。

参加者として、皆ととても親しくなれたことに感謝しています。1泊2日を共にすることで耕されたものがたしかにあると思います。心がとてもくつろいで、抱えていたものから自由になれたり、新しい気づきを頂いたりしたことに感謝しています。

練成会を通して頂いた恵みを大切に、日々につながっていききたい、と思います。 (青地)

聖体授与の臨時の奉仕者の集い

今年度の「聖体授与の臨時の奉仕者の集い」が11月9日(日)午後、開催され、奉仕者21名が集まりました。

指導司祭はコリンズ神父様で、はじめに神父様の講話がありました。神父様は「特にテーマはありません」と前置きされましたが、私たちの心に大きな問いかけをなさったように感じました。「キリストの愛と私たちを切り離すものは何もない、罪でさえも切り離すことができない。神様の愛を私たち人間の方が断っているのではないか？私たち人間はどんなに頑張っても罪を犯すものであるが、神様に愛されているものであるから心配はない。ただ自分のできることは失敗を恐れずに精一杯やること、失敗しても神の愛の中に私たちはある。神のみ旨を果たすために私たちは遣わされていて、愛である神がこの罪人である私をもお創りになった。だから、私たちの限界、足りなさを良くわかってくださる神なのだ」と。

休憩をはさんで、奉仕者全員で日ごろの奉仕をしながら感じていること、また、今年度より奉仕を始められた方の感想などを分ち合いました。多くの奉仕者が感じていることは「この奉仕を長く続けているが、そろそろ他の人に奉仕してもらった方が良いのではないか？」「私が継続して奉仕するのではなく、より多くの人にこの奉仕を体験してもらおうと良いのではないか？」という、この奉仕を続けていくことへの迷い・不安でした。その一方で、この奉仕をすることによってミサをより深く味わうことができ、ご聖体に対する思いが以前より一層強くなったことや、この奉仕を通して喜びを感じている奉仕者も大半でした。「継続することを断る理由がないのならどうぞ続けてください」というコリンズ神父様の一言に励ましを受け、言葉には出さずとも、また来週から聖体授与の臨時の奉仕者として喜んで奉仕していきましょう、その様な気持ちを各人が抱えていることを感じつつ、閉会となりました。

また、この日神父様から私たち奉仕者には宿題が課せられました。「平凡な一日の中で、いつ、どこでどういうふうに神の愛を感じたか、神の愛が現れたか、毎日感じてみること」でした。この祈りによって私たち奉仕者を変えられていくこと、ご聖体を受け取られる方々が私たち聖体授与の臨時の奉仕者の奉仕する姿勢を通して神様の愛を感じてくださることに希望をおいて、奉仕に努めていきたいと思いを新たにしました集まりでした。 (典礼部 橘)

『教会内空調機』更新について

評議会議長 高山

【背景】

昨今のオゾン層減少低減対策に向けて空調設備に使用する冷却用冷媒(フロン R22)使用の旧型機種が法的に使用禁止となり、2006年度老朽化が顕著であった小聖堂系統とホール系統の室外機を更新しました。(当時、総工費2,300万円のうち700万円は信徒からの寄付金で賄った)

残りの4系統も劣化が著しい事もあり、直近の更新が必須であります。特に3階系統機器の劣化(竣工14年経過)が進み、故障も頻発しております。また聖堂、1・2階系統も室外機からの異音も著しく、経年劣化は顕著です。従って高効率機種に更新し、省エネ・高エコ・光熱費低減を実現すると共に、今後の部材高騰の予測からも工事費用の節約(工程の圧縮、工程経費等)を図る為に、4系統を一括で更新する事を10月の評議会で提案致しました。その後、当教会代表者が工事業者と精査致しました結果、現在工事見積もり額は約2,700万円となっています。

【費用捻出のための提案】

上記工事費用(約2,700万円)捻出の為、信徒の皆様からの寄付を考えております。寄付金依頼開始月及び金額などにつきましては12月の評議会で審議の上、信徒の皆様にご依頼申し上げる予定です。その節はご協力の程よろしくお願い致します。

以上

～・～・～ 各部紹介 ～・～・～

専門部会の各部会の紹介コーナーです。各部ではみなさんの参加をお待ちしています。教会の運営・活動に協力下さい。

施設管理部

コーディネーター 飯塚

専門部会のなかでも、とりわけ目立たない裏方の事だけを責務と致しております。

その主な内容を申し上げますと、教会すべての建築物と内部の設備、庭園、園芸等に関する維持管理と保全、什器備品等の購入、施設内清掃業務に関する業者への指示や立会いそして教会行事への協力と参加等々です。

人の目に見えない部分の仕事は多岐に渡り、専門的知識そしてものに対する観察力と洞察力が必要な奉仕活動です。故に管理部員の固定化が経年の悩みとなっております。

ここ数年のところ、10人の皆様のご支援により何とか責務を全うしておりますが、部員のお一人が今年お亡くなりになられ、淋しい想いをしておりました折、新たな部員を招致する事ができました。ご自分から「興味があるので是非参加させて下さい」とおっしゃられ、頼もしい限りの方です。しかもお若いのでとても喜ばしい事と皆で喜んでます。

皆様に興味を持って頂ければ、部員と一緒に行動しているうちに自然と身について参るものなのですが、我が部はどうも敬遠されがちのように思います。それと言うのも、私を筆頭になにか溶け込みにくい雰囲気でも醸し出してしまっているのか等と考える事もしばしばです。

私がコーディネータをお引き受けいたしましたのは2004年4月の事でした。

過ぎてみれば早いもので3年7ヶ月が経ちました。教会建設竣工後13年が過ぎ、あちこちに経年劣化が診られるようになって参りました。私がまず手がけたのは、竹中工務店の方々と建物に関する中期保全計画の作成でした。その保全計画を元に、ここ数年大きな改修工事を皆様方からのご寄付等もお願いし遂行致して参りました。現在までに数々の悪しき個所は相当数、改修致しましたが、設備機器の劣化が著しく心を痛めているところです。次年には大規模な空調機4機の更新が待ち構えております。その折衝に苦慮致しております。

私はサラリーマンを致しておりますが、本業でも高層階を持つビルを専門に管理維持する仕事を致しておりますので、教会でも同じ事をお引き受けするのは嫌でしたが、皆様のお役に立てばと考え、励んでおります。何卒信徒の皆様のご協力をこれからも宜しくお願い致します。



《お 知 ら せ》

各部からの活動の連絡ですが、広く信徒の皆さんに呼びかける内容の記事をここに記載いたします。教会活動の参考になさって下さい。

【施設管理部より】

教会員の皆様には、教会の清掃にご協力を頂いてありがとうございます。

2009年1月より、清掃当番をこの教会報に貼付している**掃除当番表**に沿ってお願いいたします。

婦人会・壮年会・青年会、以外の班の名称を、金曜午後班（旧1班）・土曜班（旧2班と3班）・日曜1班（旧4班）・日曜2班（旧5班）・日曜3班（旧6班）に変えていますので、ご注意ください。私たちの教会を清潔に保ち、大切に長く使っていくために、一層のご協力をお願いいたします。

【社会活動部より】

12/3(水)10:00 手芸の集い(第1・2会議室)

どなたでも参加ご自由です。

12/13(土)10時 炊き出し(イグナチオホールお台所)

小野浜グラウンドにて、配食やおじさん達のお話し相手だけでもOKです。

12/21(日)9時ミサ後 手作りコーナー(イグナチオホール)

お弁当・食料品・手作り作品等の販売

Fr. マシアの勉強会(第1会議室)

12/1(月)10時 1/19(月)10時 2/2(月)10時

“聖書と生活”(ヨハネ福音書)を読む!

今年度のマシア神父様の勉強会は上記3回で終了いたします。日程等ご確認のうえぜひご参加下さい。お待ちしております。

【広 報 部より】

カトリック六甲教会は、12月8日(月)で「創立60周年」となります。

それを記念し、12月7日(日)から28日(日)までイグナチオホールで写真展を開催いたします。教会で記録されている写真や、信徒の方から寄せられた思い出の写真を展示いたします。教会の歩んできた道を振り返り、今後思いを馳せたいと存じます。

また、「創立60周年記念絵葉書」を作成します。12月6日(土)夜のミサから8日(月)10時のミサの間、配布いたしますのでお受け取り下さい。また、合わせて「3枚組の記念絵葉書のセット(100円)」

を事務受付で販売致しますので、お買い求め下さい。

各部だより

☞壮年会

壮年会黙想会

日時： 12月7日（日）14:00～17:00

場所： 六甲学院研修所

ご指導： マシア神父様

夕食懇親会： 17:30～

（阪急六甲駅前 イタリアンレストラン）

☞婦人会

7日（金）初金ミサ 10:00

ミサ後、例会と食事会

講師 片柳神父様

カレー当番 東5・西1

8日（月）無原罪のマリア（祭日）

ミサ 10:00 ミサ後、ロザリオの祈り

25日（木）主の降誕 ミサ 10:00

☞三日月会

12月の定例会は、お休みをします。

また喫茶も12月・1月は他の行事と重複するためお休みをします。2月よりのご利用をお願い致します。

☞青年会

14日（日）12:30 定例会

場所：第5会議室

内容：「分かち合い」

青年会クリスマス会の打ち合わせ、
新年会の出し物の打ち合わせを予定。
どなたでも参加ご自由。



〜〜〜 クリスマス行事のご案内 〜〜〜

教会学校では12月6日に下記の2つのイベントに参加します。

【神戸市民クリスマスプレイベント・クリスマスキャロル】

12月19日(金)に行われる市民クリスマスに向けて、近隣のキリスト教教会との合同プレイベントです。道行く人にクリスマスソングやクリスマスメッセージを届けます。

【シナピス神戸主催 クリスマスチャリティーコンサート】

このコンサート自体は中央教会にて13時から開催されています。クリスマスキャロルが終了後、六甲教会の子ども達だけで中央教会へ移動して、出演します。これは野宿者支援・須磨の夜回り支援のためのコンサートです。

ご都合がよければ、応援を兼ねて子ども達の歌声を聞きに来て頂ければと思います。

特に六甲道でのイベントはほとんど六甲教会の子どもだけになりそうなのと、街頭という初めての経験ですので、応援頂けると嬉しいです。

6日の子ども達の予定は下記の通りです。クリスマスキャロルの時間はおおよそです。

【6日の流れ】

- | | |
|--------|----------------------------------|
| 12時30分 | 六甲道駅北側集合 |
| 12時35分 | 各教会合同での練習 |
| 13時00分 | クリスマスキャロル1回目(15分) |
| 13時20分 | クリスマスキャロル2回目(15分) |
| 13時40分 | 市民クリスマスプレイベント終了
JRにて神戸中央教会へ移動 |
| 14時15分 | 中央教会到着 |
| 14時50分 | チャリティーコンサート出演(20分) |
| 16時00分 | コンサート終了
阪急電車にて六甲教会へ |
| 16時40分 | 六甲教会帰着・解散 |

【第50回神戸市民クリスマスのお知らせ】



12月19日(金)午後7時30分から、カトリック中央教会で「第50回神戸市民クリスマス」が行われます。神戸市民クリスマスは、神戸市内にあるキリスト教諸派の教会が力を合わせて行うクリスマス行事です。普段は別々の場所で集まり、祈っていますが、イエス・キリストを信じることではわたしたちとまったく同じプロテスタントの兄弟姉妹たちと、共に喜びのときを過ごしましょう。

今年の礼拝のテーマは「光は闇の中で輝いている」です。

片柳神父が、「祈りへの招き」(例年のクリスマス・メッセージに当たる部分)を担当します。礼拝の前に、三宮や元町でキャロリングも行われます。詳しくは、下記のホームページをご覧ください。お子さんたちのためには、午後7時から子どもプログラムも用意されています。

今年は、記念すべき50回目の市民クリスマスです。皆さまお誘い合わせのうえ、どうぞご参加ください。

クリスマスおめでとう!

《第50回神戸市民クリスマスホームページ》

<http://www.kobeymca.or.jp/shiminxmas/>



12月の予定

日	曜	教会暦	教会行事
3	水	聖フランシスコ・ザビエル司祭	
5	金		初金 7:00 10:00 ミサ 婦人会例会
7	日	待降節第2主日 宣教地司祭育成の日	六甲教会 60周年記念祭 13:00 結婚セミナークリスマス会 14:00 壮年会黙想会(六甲学院生徒研修所)
8	月	無原罪の聖マリア(祭日)[六甲教会の守護者]	7:00 10:00 ミサ (六甲教会創立 60周年記念)
13	土	聖ルチアおとめ殉教者	
14	日	待降節第3主日	10:15 小教区評議会 12:00 中高生会クリスマスコンサート 14:00 メサイヤコンサート 17:00 海星病院集会祭儀
19	金		10:00 回心の集会祭儀とゆるしの秘跡 17:00 神戸市民クリスマス(神戸中央教会)
20	土		13:00 教会学校クリスマス会
21	日	待降節第4主日	12:00 中高生会釜が崎訪問クリスマス会
22	月		11:00 ベビーとママの集い
24	水	クリスマス・イブ	16:30(子供と共に) 19:00 21:00 ミサ 17:00 海星病院聖堂のミサ
25	木	主の降誕	7:00 10:00 ミサ
26	金	聖ステファノ殉教者	
27	土	聖ヨハネ使徒福音記者	
28	日	聖家族(祝日)	
29	月	主の降誕第5日	
30	火	主の降誕第6日	
31	水	主の降誕第7日	24:00 新年のミサ

編集員のつぶやき

早いもので、今年も12月がやってきました。みなさんにとってどのような1年でしたか？
1年を振り返ると、片柳神父をはじめとする新しい方々との出会いもあり、喜び多い年でした。
クリスマスまでの4週間、感謝のうちに、子どものように心をときめかせながら過ごせますように……。今年のサンタクロースのプレゼントは何が届くのかな？o(^-^o ふ

<p>教会報1月号の発行は12月28日(日)です。 編集会議は12月21日(日)です。 記事原稿は、12月14日(日)正午までに信徒会館受付へご提出願います。(広報部) http://www.rokko-catholic.jp</p>	<p>カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21 電 話 078-851-2846 F A X 078-851-9023 発行責任者 桜井彦孝 神父 編 集 広 報 部</p>
--	--